



防災行政無線が聞き取りにくい場合は☎(48)7030へ問い合わせてください。最新のメッセージを聞くことができます。

力の限り燃え尽きる!

目標に向かって汗を流す若者たち

防災への意識改革

87

特別編

安

全

で

住

み

よ

い

まちづくり

ニュース

防災交通課
☎(48)111
(内208)

第五十三回愛知県消防操法大会が七月十二日、一宮市の愛知県一宮総合運動場で開かれます。この大会に阿久比町消防団第一分団が二十五年ぶりに町消防団の出場としては五年ぶりに知多郡五町の代表として「小型ポンプ操法」の部で出場します。優勝を目指して夜間練習に取り組み阿久比町消防団第一分団を取材しました。

大会に向けて第一分団は三月十七日から練習に励んでいる。晴れた日は英比小学校のグラウンド、雨の日はスポーツ村屋内練習場を使い、月曜日から金曜日まで連日連夜汗を流す。

午後八時が近づくころ、一日の仕事を終えた消防団員が小学校グラウンドに集まり始める。大会に出場する団員のほかにも第一分団のメンバー、半田消防署阿久比支署や役場の職員、他の分団からの応援も加わる。

誰からの指示が出るわけでもなく、ブラシを使いグラウンド整備を行う

者、器具を準備する者、自然発生的に全員で県大会に向けてのサポート体制が生まれている。

榊原和宏消防団長の合図で練習がスタート。

「火点は前方の標的、水利はポンプ右側後方の防火水槽……。夜の静まり返った英比小学校グラウンドに、第一分団長で指揮者を務める西畠大祐さんの威勢のいい声が響き渡る。

小型ポンプ操法の部は、指揮者の指示で隊員が消防ホースの接続、延長、筒先の結合操作を行い、ポンプから約五十メートル先の標的に向けて放水。その後に集合して整列するまでの一連の動作が競われる。動作に掛かった時間や正確さ、チームワークなどが審査の対象となる。

出場するメンバーは、自分の役割を確認しながら練習を繰り返す。「ヘルメットを気にしちゃダメだ。しっかりと前を見て、真つすぐ進め」

時に、消防団長から厳しい「げき」が飛ぶ。第一分団としては二十五年に一回しか巡ってこない県大会出場町消防団、そして知多五町の代表として、各自がこの機会を幸せに感じ、自覚を持って上位入選を狙ってもらいたい」と団長は語り、真剣なまなざしで練習を見守る。

休憩の合間にも消防署員から技術面の指導が続く。額に流れる汗をふきながら、身振り手振りを交えて、アドバイスをまじめに聞き入れる。

仲間が撮ったビデオを見ながら自分たちの動きのチェックも欠かさない。メンバーをまとめる指揮者西畠さんは「ここまで真剣になれるのはなぜでしょうかねえ。先輩に誘われて軽い気持ちで消防団に入団しましたが、今は生活の中の一部です。市民の生命や財産を守る大切な仕事に誇りを持っています。大会が終わるまでは酒もタバコも断ち、優勝という一つの目標に向かって全員で突き進んでいます。大会終了後には美酒で乾杯といきたいですね」と話す。

午後九時半過ぎ、仕事の都合で練習に遅れてきた一人が加わり、大会出場のメンバーが五人すべて揃った。「今日最後の一本、気合を入れていくぞ。よっしゃあー」。全員の掛け声が一つになる。

疲れのピークはすでに限界を超えている。最後の力を振り絞り、歯を食いしばりながらの練習が続けられた。

「第一分団小型ポンプ操法を終了しました。別れ」。指揮者が最後の号令を発した瞬間、静かな夜のグラウンドに「お疲れさま」という言葉と拍手がわき上がった。

第一分団は七月十二日の大会に向けて現在も練習を続けています。彼ら若者が流した汗と努力は、きっと素晴らしい結果を残してくれるでしょう。目指せ優勝。頑張れ阿久比町消防団。